

## 【ぎょうせい：徳島】

今回、岩内町史のプロポーザルに参加させていただくにあたって、私どもなりにですね、過去の町史ですとか資料を拝見をさせていただきました。で、作り方としては、なかなかめずらしい作りの町史かな、というのが、個人的な感想でした。というのも、道内の他の自治体史を拝見してますと、いわゆる、教育分野とかですね、福祉分野というように、分野毎に執筆されてるケースが多いんですけども、岩内町史の場合はですね、時代毎に書いてあるページと、年表で書いてあるページと、あとは、原始・古代の遺跡の最初の頃から振り返ってるので、3部構成ということで、ちょっとめずらしいかたちだなというのが、まず感じたところです。

プレゼンテーションの時にもお話しさせていただいたんですが、今回の町史を作成するにあたってですね、基本的には、自治体、役場のほうにある資料で、数値的などところすとか、施策のところっていうのを拾っていききたいなと思っているんですけども、なにしろ70年近い期間がございますので、やはりそれは、各分野の皆さんのお力を借りないと厳しいなというのが本音のところでございます。

それで、お手もとの企画書ですね、9ページを開いていただけますでしょうか。これが、今お話しさせていただいた、前回の町史を拝読してですね、お仕事をするにあたって意識したいなと思ったところです。前回の岩内町史は、古代から昭和30年までの編さん期間をまとめた、長いものですよというところと、今回70年という編さん期間をやるにあたって、どのような本を作ろうかというところを、皆さんとご相談したいなと思っています。

今ここに書かせていただいているのは、この当時私が思った、やらなきゃいけないことになります。たとえば、目次立てをどうするのか、というところもですね、前回と同じものをそのまま引っ張ってくるのか、新しいものを作るのがいいのかというところも、これからの協議事項のひとつとなってまいります。

それから、資料の状態はどうかということで、「大火」のこともちょっとあったので、実際どれぐらい資料があるのかなとかですね、もしかしたら、分野によってはちょっと少ないかも知れないなという、ちょっと心配なところもあったりするんですけども、ただ、資料がなければいって中で頑張る、というのが基本スタンスなので。その資料の収集ですとか、ある、ないという話のところは、ぜひご教示いただきたいなと思っています。

その他ですね、年表の作成をどうしましょうとか、該当する写真の選定をどうしましょうとか、いろいろな課題はあるんですけども、まずは目次立てのところから、お仕事としては始めて行くような流れになります。

それに合わせまして、お手もとの業務内容全体のスケジュールの簡易版というものをご準備させていただきました。いろいろお仕事はあるんですけども、主にやりたいことと、作業目標ということで書かせていただいております。簡単に申し上げますと、今年度につきましては、目次の構成案ですね、どんな目

次にしようかという方向性の決定がまず、いちばん大事になってまいります。この決定がでたところで、実際、執筆だったり、資料収集を本格的に始めていくということになりますので、まずは、令和5年度ですね、目次構成のところでご協力をいただきたいなと思っております。

併せまして、これはこちらからのご提供になるんですけど、実際どんな本の紙面になるのかという、紙面の見本ですね、レイアウト案というのを次の会議の時にお持ちしたいと思っております。実は、今回のプロポーザルのお話をいただいた時に、自治体史ってどんなものか、皆さんどのように想像されるかわからないんですけども、文字がびっしりのものかなって最初、思っていたんです。でも、今回はそうじゃなくて、後ほど事務局さんからもご説明があるんですが、「町民の方が読みやすいように」ということで、全ページオールカラーの町史というものを考えています。正直なところ、道内ではそうしたお客様はほとんどいらっしゃらなくて、私も、磯さんもそうなんですけど、参考にしたいなあと思っている本州の自治体史の担当を、2年前に経験しておりまして、岩内町さんも、70年という、期間が長いので、写真も一杯載せたいなというところから、そちらにありますように、オールカラーの町史で設定しています。これができたらですね、道内でもけっこうめずらしいかたちになると思うので、良い意味でも注目されると思います。そのためにも、やはり資料収集のところとか、皆さんからこういう情報を入れた方がいいという話を、ぜひ、ちょうだいできればありがたいなと思っております。

その後、令和6年度以降のお仕事の話をご簡単に申し上げますと、令和6年度は、執筆作業というのが始まりまして、まずはですね、こんな原稿を書いてますという、サンプル原稿をお出しさせていただきます。その時点で、「こういうふうを書くんだ」というのをみていただいて、ご意見だったり、承認をいただいたりして、令和7年度、8年度と執筆を続けてまいります。原稿が出てきたら、皆さんに読んでいただいて、ご意見をいただくことになるんですけども、実は、令和7年度、8年度の中盤のところから、いちばん原稿が出てくる時期となってきます。ですので、読んでいただいたり、ご意見をいっぱいいただいたりということで、ちょっとたいへんになってくるかと思っております。途中、原稿も、初めて協議するものや、2回目の協議となるものなど、混在する時期というものがでてきます。例えば1回目の編さん審議会で教育の分野を協議したんだけど、次の時は商工の分野を審議するというので、ちょっと委員の皆様にはいろんな分野を読んでいただくことになるんですけども、それが令和7年度、8年度というところで、真ん中、山場になってまいります。

その後、令和8年度の後半から9年度にかけて、いよいよ実際の本のレイアウトしたもの、ページになったものを皆様にお示しすることになります。

最終年度はですね、それらの校正ですとか、レイアウトのチェックという、最終的なところを含めまして、令和10年度末の納品というのが、現実的なスケジュールでございます。

駆け足になってしまったんですけども、まず今年度はですね、構成案、目

次のところを決めていきましょうということで、こちらから目次案をお出しさせていただいた際には、こんな内容を入れた方がいいんじゃないかとかですね、逆に資料だけだと、出来事の重要度がなかなか伝わらない部分があるので、例えばこの出来事は、すごく岩内町にとって大きかったので、いっぱい書いた方がいいよ、とかですね、そういうところのご意見も、今後ちょうだいできればなと思っております。

#### 【ライター：磯】

今、お話があったんですけども、紙の資料だけからはわかりづらい、背景にあるものであったり、あるいは優先順位的な部分であったりとか、なんかそういったものって、紙の資料を読んでもなかなかわからなかったりすることがけっこう多くあります。さきほど A4 オールカラーの見本（和光市史）を事務局の方が紹介していたとおもうんですが、あれを作ったときは、ヒアリングというかたちで、座談会形式のものもやりましたし、対面形式のものもありました。だいたい都合 30 人以上の方に、お話をいろいろ伺う場を設けて、いろんな分野なんですけども、そんなかたちで流れをつかんだりとか、あるいは深い内容であったりとか、そういうものを収集して、紙の資料と合体させて原稿の方を作っていくというような感じで執筆しておりました。

その時は昭和 60 年以降が対象だったんですけども、今回はその倍くらい長いので、さらにその前の時代とかも深掘りしていくためには、おそらく紙の資料だけでは足りないかなというふうに思ってます。そういった面でも、さっきちょっとお話したんですけども、皆さんからヒアリングをさせていただいたりとか、あるいは、さっき言ったように、「この人に話を聞いたらいんじゃないか」という情報であったりとか、そんなことを考えていただけるとありがたいです。

## 【質問・意見】

### ○A 委員

15人の委員が決まったわけですが、先ほどの話では、令和7年度、8年度がいちばん密になるというお話だったと思うんですけども、先ほど事務局の話では、任期が令和7年3月31日ということで、任期切れになるわけです。事務局の方の職員の関係も、もしかしたらというおそれがないわけではないので、できれば事務局の方で、いわゆる今回の委員が宛て職でなくて、個人の属性として、個人が委員になったという捉え方で、なるべくなら継続というところでやっていただくと。ぶつ切りと切れたら、「ぎょうせい」さんの方も困るだろうし、事務局も困るだろうし、そのような配慮をお願いしたいと思います。

### ●会長

青年会議所なんかは、卒業ということで、(理事長の)交替があったりするので、意見をいただくという中で、宛て職はしょうがないのかなと思うんですけど。

### ○事務局

一応、条例上は再任は妨げないとなっております。事務局としては、できれば同じ方に最後までやっていただきたいというのは、本音としてはあります。それでも、個々に(継続できない)事情が出てくると思いますから、その時は、その都度考えていきたいと思うんですけども、人が替わる際は、もれがない(議論が途切れしない)ように、最大限、引き継ぎをきちんとやっていただきたいと思います。そのためにも、事務局としましても、会議録等もきちんと残していきますので、十分に読み込んでいただいて、どういう流れの中で、こういったことが決まってきたのかということを含めて、引き継ぐ中で交替していただけるものと期待したいと思います。

## ○B 委員

岩内町史を新たに作成するというかたちになるんですけど、岩内の歴史において、「大火」、これが一番インパクトがある歴史的な部分だと思うんです。70年経つたんですね確か。で、たぶん当時、一番稼いでいたというか、実際に商売なり何なり、中心でやってた人がたぶん（当時）30代前後の方々だと思うんですけど、当然そうした方々は（今では）100歳になってたり、かろうじて80歳くらいの方が生きてるのかなと思うんですけど、やはりそのへんもう少し、何というのかな、たぶん当然そこはメインになってくるだろうと私は考えてますけども、編さんするにあたって、そういうところを、先ほど「ぎょうせい」の方もおっしゃっていたとおり、すごく大事な部分なんで、そこについてはやはり、今生きている、多分その当時の中心になってた人物の意見というか、お話を伺うという、そういう作業もすごく重要になってくるんじゃないかなと思うんで、そういうところを分厚くしていただきたいなということを思っております。

それと、編さんするにあたって、「分野別」とか「編年体」というんですか、そういうようなかたちであるんですけど、「分野別」といった場合に、どのような分野を想定されているのかなと思ひまして、ちょっとお教え願いたいと思います。

## ●磯

「分野別」といった場合は、たとえば、教育であったり、産業という括りもあるし、福祉・保健、それから、生活基盤というか、上水道とか下水道、そういったインフラ系、あと、防災とか、役場の中でそれぞれカテゴリー別の役職があると思うんですが、それら6、7分野ぐらいになりますかね。ただ、それだけでやると、さっきもちょっとお話があったんですけど、歴史の流れがあまりわからなくなってくるんで、たとえば「平成だけ」とか、「30年くらい」と限定したところだったら、「分野別」だけでも、特に問題ないと思うんですけど、今回は、すごく歴史が長いですから。

まあ、「編年体」というのは、読んで字のごとく、最初から時を追っていくんですよ。ただ、それだけでやると、じゃ、1年ごとに解説していきますとありますね。でも、町の事業ってけっこう、何年も続けてやっていくものが多いですよ。だから、1年ごとの記述だと、やっぱりわかりづらくなってきちゃうっていうデメリットはあるんですよ。私個人的には、「編年体」というのと、「分野別」というのを、1部、2部でミックスさせるやり方が一番いいかなと思ってます。

## ○B

そういう中で、今いろいろ、分野別の括りがあると、ご教示いただいたんですが、その中で、岩内町の歴史として鯉場の時代から親方が金を出して、文化振興とういか、芸術だとかそういうことを、わりと綿々と続いて、その中に木

田金次郎さんがいらっしゃる部分があるんで、やはりそういう「分野別」の中に、文化とか芸術とか文学とか、そういうところをある程度入れていただければと。

●磯

そうですね、確かに。それは、教育文化の中でそういうテーマのページを作るのもいいと思いますし、あるいは、重要なものに関しては、特集的に1部、2部とは切り離して、ページの合間とかに、何ページか入れて組んでいくというやり方もあると思います。

○B

僕らの知り得ない文化の中でも、いろいろお年寄りから聞くと、岩内町には昔からけっこう絵を描く人がいたとか。木田金次郎さん以前に。木田金次郎さんが出てから、皆さんけっこう写生会をいっしょにやってたとか、そういう話もよく聞きますし、そういう部分は岩内の歴史の中でみてもすごく重要なのかなと。

●磯

もしかしたら、そういうのは、「大火」とともに、特集的な扱い方でページを組んでいくのもおもしろいかも知れないですね。

○B

まあ、そのへんどういうかたちになるかわかりませんが、なるべくそういう部分もピックアップしていただきたいなと思います。

○会長

ちょっと今、「大火」の話が出たんで、関連性があるのかとおもうので確認しますが、細田先生が書いたものは、町はいただいているんですか。

●事務局

はい、町の方で預かって（保管して）おります。

○会長

「大火」を知っている方が、だいぶ亡くなられたりしているんで、それがあるとないのとでは、かなりまとめ方が違うのかなと思います。

○C

今のお話を伺っているとだいたい70年の歴史ですね。それ以前のは佐藤弥十郎さんが編さんした町史の部分。それはどういうふうな扱いになるのですか。

## ●徳島

これから事務局さんとのご相談にはなるんですけども、今回の構成の中で、最初に、プロローグ的なものじゃないですけど、前の町史のところで触れてたところの概要っていうのは入れていきたいなど、いま時点では考えております。で、その話があつての、今回の編さん 70 年なので、まずそこで、プロローグで触れたいというのは 1 点、お伝えできるかなとは思っています。

さきほど、磯さんも言ってましたけど、今回の編さん期間にかかわらず、大事なものというのは、やはりトピック立てて、別立てで入れた方がいいかなと思ってますので、そこは教えていただきたいなと思っていますところなんです。

## ○C

今、村山さんなんかといっしょに、古文書の会をやってるんですけど、まさにその世界ですね。「見野先生」がずいぶんまとめておられて、「築瀬真精」さんの記録、そういうものも活かされるようなやっぱり、ある程度の観点、前史とういのか、現代史だけじゃなくて、そういった点ちょっと配慮していただきたいと思っています。つまり、佐藤弥十郎さんの所には書かれなかったものがあるわけですね。(その後の)資料の発掘によって。

## ●徳島

たぶん前の町史以降で、今おっしゃっていただいたような、実はいい資料があったんだって話などが、きっと他の分野でも、もしかしたらあるんじゃないかなって思っているんです。実は、このプロポーザルでのお仕事が決まった後に、事務局様とお話しした中でも、「町民の方が持ってたよ」とか、「後からわかったことも、できる限り入れていきたい」というご意向をいただいておりますので、まとめ方をどうしようかっていうのは正直迷ってるんですけど、そういう記録のお写真だったりとか、そういうものはぜひ、できるだけ載せていきたいと思っていますので、いろいろ教えていただきたいなと思っています。

## ●切明

補足させていただきますが、基本的にはですね、前の町史がございまして、それが昭和 30 年までの歴史が書かれていますので、新しい町史の記述はそれ以降と、現時点では考えております。昭和 30 年以降、令和 4 年までの歴史です。ただ、今ちょっと議論になりましたけれども、「大火」のことですとか、前の町史の触れるべきプロローグのことですとか、序章で触れたり、トピックで特集を入れてみたりだとか、そのへんで検討しているところでもあります。ですから、「太古まで戻って」ですとか、そういった部分では、次の町史は考えてございません。